

水稲・大豆の生育と管理

令和5年6月号

大分県北部振興局集落営農・水田畑地化第一班

水稲の初期除草剤を効かせるポイント

水稲の初期除草剤は薬剤散布後、田面に除草剤処理層が形成され、効果を発揮します。処理層を安定させることで除草効果が安定します。

① 漏水防止対策！

→畦塗りや穴をふさぐ等対策を行ってください。

② ほ場を均平にする！

→代かきを丁寧にしっかり行いましょう。

湛水の深さが同じになるように均平にすることで、除草剤処理層が形成され効果が高くなります。

③ 除草剤処理後3～5日間は湛水深3～5cmに！

(ジャンボ剤は5～6cm)

→水の出入りを止め湛水状態で均一に散布してください。

④ 散布後7日間は水を動かさない！

→散布後は少なくとも3～4日間は通常の湛水状態を保ち、散布後7日間は落水、かけ流しはしないでください。

⑤ 天気予報をみて散布しましょう！

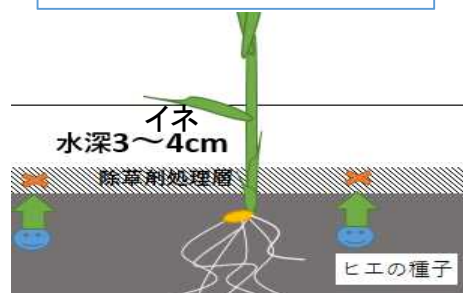
→処理直後に大雨が降り、田面水があふれると効果不足になる恐れがあります。

◎ 除草剤の使用時期の目安

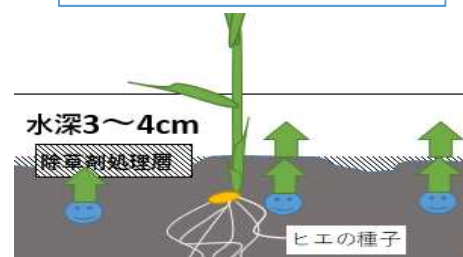
★水田内で最も生育の進んだノビエの葉齢を目安として

ください。 ※使用前はラベルをよく読み、使用時期、使用方法を守って散布しましょう。

圃場が均平→処理層が安定



圃場がデコボコ→
一定の処理層ができず、
ヒエが発芽する



種類	使用適期
初・中期一発剤	移植直後または活着後～移植後20日後位(ノビエ2.5葉期頃まで)
中・後期剤	移植後20～25日位(ノビエ2.5～3.5葉期頃まで)※体系処理で使う



以下の稲品種には、特定の除草剤が使えません！

「みなちから」「とよめき」「タカナリ」「モミロマン」「やまだわら」「オオナリ」「ミズホチカラ」「笑みたわわ」等 特定の除草剤成分(ベンゾピシクロン、メソトリオン、テフリルトリオン)で薬害が起き、苗が白化して枯死する場合があります。
上記の品種の除草に、これらの成分を含む除草剤を使用しないよう、ご注意ください。
←農研機構のHPで詳細をご確認ください



水稲品種「なつほのか」の適切な栽植密度

・安定的な収量、品質を確保するため、植付け株数は 坪あたり50～60株(株間22～18cm)程度を目安としましょう。

地力向上のため、麦わらをすき込みましょう ポイントと対策

- ①代かき時の浮き上がり防止、麦わらを15cm以上の長めにカット。
- ②荒おこしは、早めの時期に深く耕す。 ③代かきは、極浅水で行う。
- ④麦わらが分解される時にガスが発生し、水稲初期生育に影響を与えるため 移植後15日、25日に水の入れかえを行い、ガス抜きをする。
(その後通常管理)

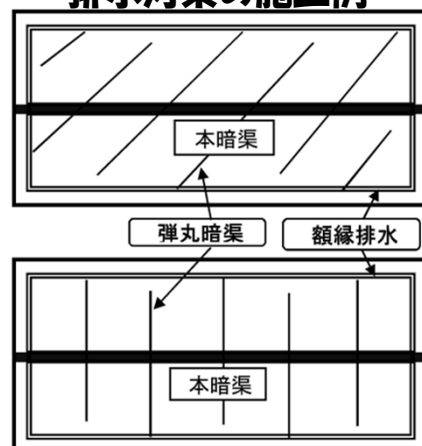
大豆の栽培管理 播種前の準備

◎排水対策のポイント

【畦立・額縁明渠・弾丸暗渠】

大豆は出芽期から生育初期にかけて湿害に非常に弱く、梅雨期の降水量の増加は単収の減少に繋がります。

排水対策の施工例



◎適切な土作り

大豆の最適なpHは、pH6.0～6.5程度です。土壌の酸性化は単収低下の原因になります。土壌診断により圃場のpHを確認し、石灰質資材でpHを調整しましょう。

【粘質～壤質土壌の各資材施用量(kg)(目標:pH 6.2)】

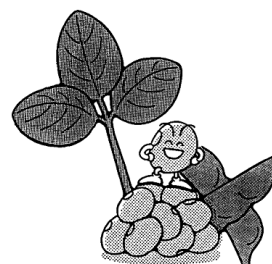
改良資材	土壌のpH		
	<4.5	<5.0	<5.5
苦土石灰	240kg	140kg	70kg

* 土壌診断により石灰質資材の投入量が300kg/10a以上になった場合は、数年に分けて施用しましょう。

◎肥料について

大豆の施肥は、出芽後の初期生育を確保し、根粒菌が活動を始めるまでのスターターとして使用します。やせた圃場や収量低下が予想させる連作田では必ず施肥しましょう。

圃場の種類	成分量(kg/10a)		
	窒素	リン酸	カリ
転換初年度・肥沃田	0	10	10
連作田・やせ地	3	10	10



◎播種直前耕起の徹底！

耕起後に降雨があると土が水を含み、圃場が乾きにくく播種適期を逃します。播種直前に耕起を行うことで、速やかに播種作業に入ることができます。適期播種のために、播種直前に耕起しましょう。

* 雑草の多い圃場では、播種前に非選択性茎葉処理剤を散布して下さい。稲への影響が大きいため周囲の水稻等への飛散がない様、十分注意してください！

◎種子消毒について

種子消毒により、生育初期の紫斑病による種子腐敗を抑え、苗立ち、初期生育を良好にし、病害による欠株の防止と、紫斑病の密度低下が図られます。

注意

令和6年産（令和5年播種）はだか麦について従来品種「トヨノカゼ」の作付をお願いします。宇佐市でののはだか麦品種転換は延期となりました。



農作業に伴う道路の泥汚れ防止をお願いします

農地から道路に出る際は、泥や土を落としてから走行していただくようお願いします。